

第17回 縄文楽検定 初級 解答集

令和7年4月作成

テキストから92%の出題でした。テキストの略称は以下のとおりです。

テキストⅠ：縄文楽検定テキスト『縄文文化と火焰土器』（信濃川火焰街道連携協議会、平成21年3月刊行）
 テキストⅡ：縄文楽検定テキストⅡ『信濃川火焰街道 縄文の旅』（信濃川火焰街道連携協議会、平成23年12月刊行）
 『あ、コレ知ってる！』：新潟県立歴史博物館編『あ、これ知ってる！はにわ どぐう かえんどのきの昭和平成』（新潟日報事業社、令和元年8月刊行）。
 日本遺産ガイドブック：『日本遺産「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化』ガイドブック
 （信濃川火焰街道連携協議会、令和3年度改訂版 ※平成28年度版とは頁数が異なるので注意）
 『信濃川火焰街道連携協議会ガイドブック vol.6』（信濃川火焰街道連携協議会ホームページ）

No.	解	問題の出典と解説
1	c	テキストⅠ p5
2	d	テキストⅠ p5 aは長岡市馬高遺跡出土の火焰型土器（A式2号）、bは十日町市幅上遺跡出土の深鉢形土器、cは長岡市馬高遺跡出土の王冠型土器です。aとdの一番の違いは鶏冠状突起で、aは尾部が左上り、dは右上がりです。
3	b	テキストⅠ p25～26（156～157） 津南町道尻手遺跡例は高さ60.7cmで国内最大の火焰型土器です。最大の火焰型土器は高さ61.0cmのアメリカ・クリーブランド美術館所蔵資料とされますが、新潟県立歴史博物館の宮尾亨専門研究員の調査によれば、底部を別個体で補っており、本来の個体より5～7cmほど大きく復元されている可能性があるそうです。（参考：新潟県立歴史博物館研究紀要第20号、2019）
4	d	テキストⅠ p22
5	a	テキストⅠ p9～10 鶏のトサカに似ていることから鶏冠状突起あるいは鶏頭冠と呼んでいます。
6	d	テキストⅡ p7
7	c	テキストⅠ p1
8	b	テキストⅠ p15
9	d	テキストⅠ p15
10	b	テキストⅠ p11 aは十日町市幅上遺跡の深鉢形土器、cは長岡市馬高遺跡出土の火焰型土器、dは長岡市山下遺跡の深鉢形土器です。
11	c	テキストⅡ p2 この土器は、胴部が縄文で施文されている点が特徴です。一般的な火焰型土器・王冠型土器は縄文で施文されません。
12	c	ガイドブック p7
13	d	テキストⅠ p17 今のところ縄文時代には鉄板が使用されていないと考えられています。トチノミ殻の痕跡をもつ縄文土器も発見されていません。縄文土器の底には、木の葉や笹の葉、編み物の痕跡が残されていることがあり、これらを敷いて、手で回しながら土器を作っていたと考えられています。
14	c	『あ、コレ知ってる！』p20～25、32
15	b	『あ、コレ知ってる！』p48～59
16	a	『あ、コレ知ってる！』p26
17	d	信濃川火焰街道連携協議会ガイドブック vol.6 p12
18	d	テキストⅡ p2,9,12,18、日本遺産ガイドブック構成文化財一覧
19	d	テキストⅡ p12,17,18,23

20	c	テキスト I p16 火焰型土器の色調には赤色系と白色系があります。土器の胎土に鉄分が多く含まれるものは赤く、少ないものは白く焼き上がります。
21	d	日本遺産ガイドブックp2、日本遺産ストーリー 暖流の対馬海流の流入によって日本海の海水面が上昇し、ここに大陸からの季節風が吹きこむことによって、この地域が豪雪地帯でになったと考えられています。
22	a	テキスト I p1
23	c	テキスト I p29、II p20 十日町市笹山遺跡出土品のうち928点が平成11年(1999)に国宝に指定されています。現在、新潟県内唯一の国宝です。a吉野屋遺跡は三条市の遺跡で、「カップ形土偶」など土偶が多数出土しています。b長岡市馬高遺跡は出土品300点が重要文化財、d津南町堂平遺跡は火焰型土器と王冠型土器の2点が重要文化財に指定されています。
24	c	テキスト I p5～8、日本遺産ガイドブックp25
25	b	日本遺産ガイドブック構成文化財一覧表 bの転堂遺跡以外は平成以前に発掘調査が行われ、現在国の史跡に指定されています。dは十日町市の遺跡です。
26	d	テキスト外 現在のところ、縄文時代の遺跡から骨が出土しているのは、選択肢のうちイヌだけです。古くは縄文時代早期までさかのぼります。aネコとcニワトリは弥生時代の遺跡から、bウマは古墳時代以降の遺跡から出土しています。
27	b	テキスト I p22
28	d	テキスト外
29	a	日本遺産ガイドブック構成文化財一覧
30	a	テキスト外 まが玉は、適当な大きさに割った石を仕上げに磨いて作ります。
31	d	テキスト I p22～24 aは三角形土製品、bは三角埴(とう)土製品、cは石錘です。
32	c	テキスト I p22
33	d	テキスト I p22
34	c	テキスト I p23 三角形土製品は縄文時代中期中ごろに作られた道具で、土偶の省略形とする考えが主流です。新潟県の縄文中期を代表する遺物で、これ以降の時代では作られていません。他の3つは弥生時代になっても作られています。
35	d	『あ、これ知ってる！』p5～p167 縄文土器は、粘土をよく練り、ひも状にし、輪づみしながら、土器の形を作ります。a「せんいをよる」、b「木の皮をはぐ」、c「木の根をすりつぶす」とは明らかに別の動作をしていることが分かります。
36	d	テキスト I p4 住居が広場を取り囲むように配置されることから、環状集落と呼ばれます。集落の一方が途切れるものもありますが、これはC字状でなく、馬蹄形集落と呼ばれます。b環濠集落・c高地性集落はともに弥生時代の集落形態で、bは集落のまわりに濠をめぐらせたもの、cは丘陵や山頂に作られた集落です。新潟市の国史跡・古津八幡山遺跡は、弥生時代後期の大規模な高地性環濠集落です(日本遺産ガイドブックp8)
37	b	テキスト I p4 火炎土器が作られた時代の集落は、見晴らしの良い高台(台地)に作られます。今のところ、a低地、c山頂、d海辺では発見例がありません。縄文時代後期になると、低地にも集落が作られるようになります。

38	a	テキストⅠ p2 縄文時代の出土人骨を調べると、年齢、性別、身長、食生活や栄養状態など、様々なことが分かります。抜歯風習や潜水作業の専門化などについても出土人骨から知ることができます。
39	b	テキストⅠ p16
40	d	『あ、コレ知ってる！』p140 「おこげ」の分析から、シカやイノシシ、クリ・トチなどの堅果類、サケ・マスを土器で調理していたと考えられるデータが得られています(参考: 火焰土器の国p89～98)。一方、日本列島では、ナウマンゾウは約2万年前(旧石器時代)に絶滅したと考えられています。
41	b	テキストⅠ p3、日本遺産ガイドブックp6
42	c	テキストⅡ p18
43	d	テキスト外
44	c	日本遺産ガイドブックp5 福島潟は国の天然記念物オオヒシクイの越冬地として、またオニバスの北限の自生地として自然環境が保全されています。オオヒシクイは、ロシアのカムチャツカから飛来し、その数は5,000羽以上にもなります。
45	d	テキストⅡ p5・8・11・15 八十里越は、三条市から魚沼市を經由して会津(只見町)に至る道です。aは長岡市、bは見附市、cは加茂市の遺跡です。
46	c	日本遺産ガイドブックp2、日本遺産ストーリー 突起、特に口縁部に突起が付くのは縄文土器の大きな特徴で、他の焼き物とは区別されます。
47	c	日本遺産ガイドブックp15
48	b	日本遺産ガイドブックp28
49	d	日本遺産ガイドブックp6
50	a	日本遺産ガイドブックp2